

第3学年英語科学習指導案

日時 令和2年2月10日
対象 第3学年1組
標準・発展コース 17名
授業者 教諭 津村 俊輝

1. 単元名

「世界を変えようとした同世代の思いを知ろう！」

教材1： NEW CROWN 3 Let's Read 2 We Can Change Our World

教材2： マララ・ユスフザイ演説文（2013年7月、ニューヨーク国連本部）

教材3： グレタ・トゥーンベリ演説文（2018年9月、ニューヨーク国連気候行動サミット）

2. 単元の目標

- (1) 世界を変えようとした同世代について関心を高め、その人物伝や演説文の要点を捉えようと読み続ける。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 人物伝や演説文を読んで、彼らの活動の様子や自ら世界を変えようとしている思いについて読み取る。
【外国語理解の能力】

3. 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
世界を変えようとした同世代について関心が高まり、要点を捉えようとその人物伝や演説文を読み続けている。		人物伝や演説文を読んで、彼らの活動の様子や自ら世界を変えようとしている思いについて読み取ることができる。 【読むこと】	

4. 単元設定の理由

本単元では、生徒と同世代でありながら、自らの行動で世界を変えようとした3人の活動家を取り上げる。一人目は、アフリカ、マラウイ共和国のウィリアム・カムクワンバ(William Kamkwamba)である。14歳のとき、図書室の本の写真にあった風車をまね、得た知識をもとに廃材で風車を作り、風力発電に成功し、干ばつで深刻な飢饉に苦しんでいた地域の生活向上に貢献した。二人目は、パキスタンのマララ・ユスフザイ(Malala Yousafzai)である。タリバンによって特に激しい女性差別を受けてきたこと、「教育が唯一の解決策だ」ということを、ニューヨーク国連本部で演説し訴えた。三人目は、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリ(Greta Thunberg)である。環境問題に対し見通しをもって対処してきていない大人たちに対し、ニューヨークで行われた国連気候行動サミットの場で、怒りをもって演説し批判した。このように、本単元では、3人の活動家の活動の様子や思いを、人物伝や演説文を通して知り、思いを持ち行動を起こすことによって世界だって変えられることや、十代の自分たちが持っている可能性に気付くことができる教材である。

本学級は、年度当初、「英語少人数授業コース希望アンケート」（習熟度別）をとり、生徒それぞれの課題意識に応じて授業を行っていきたいことを伝えた際、「標準・発展コース」を希望した生徒たちである。理解のスピードは比較的速いものの、英文の内容について要点の的確な読み取りまでには至っていない生徒も多

い。そうした中、視聴覚教材を用いて手がかりとなる語句や表現等を共同注視させながら、理解を促すよう指導を続けてきた。また当初、自分なりの答えを持っているにもかかわらず、自信が持てず発話まで至らない生徒もいたが、ペア・グループ学習を通じ、協働して取り組むことで自信を得てきている様子も見られ始めている。

そこで本単元では自分たちと同世代の3人の活動やその思いに出会わせ、世界では自分たちと同世代が世界を変えようと行動を起こしていることにふれさせる。学習の初めに生徒たちは、「自分たちには、世界なんて変えられるはずがない…」「本当にそんなことができるのか」という思いや疑問を持つと思われる。本当にそうなのか、いや変えられるかもしれないと確かめるために、3人の人物伝や演説文の要点を読み取ろうと学習目標を設定し意欲につなぎたい。スピーチ動画やドキュメンタリー映画の予告編など、3人の活動の様子を示す補助教材を視聴させたり、事前に内容を尋ねる質問をしたりすることを手がかりに、本文のキーワードやキーセンテンスに注目させ、要点を捉えさせたい。また、世界を変えようとした同世代についての関心を高め、彼らの生き方を知ろうと目的を持って「読むこと」によって、同じ世界、同じ時代に生きる1人として、これからの自分自身の生き方を考えるきっかけとさせたい。そのために、単元の後半（第4時）では、それまでに要点を読み取ってきた同世代3人の活動家の思いを振り返らせ、自分で1人の活動家を選び、その相手に贈るメッセージを作成させる。最後には、そのメッセージをクラスで共有し合い、友達の思いにもふれさせ活動のまとめとする。本単元を通じ、中学卒業を目前にした生徒たちが、自分たちが行動を起こすことで、世界をより良い方向に変えていけることに気付き、自分たちの未来を自分たちで創造しようとする力につなげて欲しいと願っている。

5. 単元の指導計画と評価計画（4時間扱い）

単元ゴール「世界を変えようとした同世代の思いを知りメッセージを発信しよう！」			
時間	◎ねらい・○学習活動	評価規準	評価方法
1 本 時	「ウィリアム・カムクワンバさんについて知ろう①」 ◎ウィリアムさんについての英文を、キーセンテンスをもとにペアで考えを交流する活動を通して、要点を捉えようと読み進めることができる。 ○活動家3人の活動について視聴。単元ゴールの理解。キーセンテンスをもとに本文を読む。	ア	活動の観察 ワークシート①-1
2	「ウィリアム・カムクワンバさんについて知ろう②」 ◎ウィリアムさんについての英文を、キーセンテンスをもとにペアで交流する活動を通して、要点を捉えることができる。 ○本文をさらに詳細に読む。ペアで考えを交流して要点を捉え、まとめる。	ウ	活動の観察 ワークシート①-2, ①-3
3	「マララ・ユスフザイさんとグレタ・エルンマン・トゥーンベリさんについて知ろう」 ◎マララさんとグレタさんの演説文を、キーセンテンスをもとにペアで交流する活動を通して、要点を捉えることができる。 ○演説文を読む。キーセンテンスをもとに本文を読み、ペアで考えを交流して要点を捉える。	ウ	活動の観察 ワークシート② (マララさんとグレタさんについて知ろう)
4	「世界を変えようとした同世代の思いを振り返り、英文でメッセージを発信しよう！」 ◎自分の思いを、マッピングやペアでの英作文活動を通して、メッセージにすることができる。 ○生徒自身が選んだ活動家へのメッセージの作成、共有。	ア	活動の観察 ワークシート③ (メッセージの作成と共有)

6. 本時案（4時間扱いの1時間目）

(1) 題材名： NEW CROWN 3 Let's Read 2 We Can Change Our World

(2) 主 眼： 世界を変えようとした同世代3人の活動に関心をもち、ウィリアム・カムクワンバさんについての英文を、キーセンテンスをもとにペアで考えを交流する活動を通して、要点を捉えようと読み進めることができる。

(3) 展 開：

学習活動	時間	指導（○）及び支援（・）	評価（※）備考
1. Greeting & Opening	1	○英語学習の雰囲気をつくる。 ○本時の導入に繋げ、学ぶ意欲を高める。	
2. Guidance/ Affordance (1) 世界を変えようとした同世代3人を知る。 (2) 単元ゴール、本時のゴールを知り、学習の見通しを持つ。	24	○世界を良い方向に変えようとした同世代の活動家（マララさん、グレタさん、ウィリアムさん）の活動の一端を知らせて意欲を喚起し、単元ゴールへのイメージをつかませる。 ・「自分たちの力で、世界をかえられると思うか？」と問い、「変えられないのでは…」という思いから出発させ、3人の動画を視聴させる。 ・各動画を視聴する前に、キーワードを予め抽出し、知らせることによって、類推できるよう促す。 ○3人の動画視聴後に、世界を変えようとしている思いや行動に気付かせ、それが自分たちと同世代であることに驚きと興味を持たせて単元ゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。	PPT 動画（活動家のスピーチ：2本、TED2007:1本）
単元ゴール「世界を変えようとした同世代の思いを知り、メッセージを発信しよう！」			
		○次に、ウィリアムさんのドキュメンタリー映画トレーラーを視聴させ、彼に対する関心・意欲を高め、本時のゴールを知らせる。 ・動画視聴後に、内容についてペアで共有させ概要をつかませ、本時のゴールを知らせる。	映画“The Boy Who Harnessed the Wind”「風をつかまえた少年」トレーラー ペア
Today's Goal: 「Let's Get To Know Mr. William Kamkwamba. ～How did he become a hero?～」			
		・「どのようにしてウィリアムさんがアフリカのそして世界のヒーローになったのか」を要点として捉えていく見通しを持たせる。	World Map
3. Main Activity (1) 新出の語句を知る。	23 (7)	○ピックアップした単語や語句の意味や用法を知らせる。	PPT
(2) 要点に係るキーワード、キーセンテンスを見つける。	(6)	○本文の範読を聞かせたり、黙読や音読をさせたりすることで、キーワードやキーセンテンスを見つけさせる。	本文

		<ul style="list-style-type: none"> ・要点（ウィリアムさんがどんな思いを持ち、どんな活動で世界を変えていき、アフリカや世界でヒーローになっていったのか）となるキーワード、キーセンテンスに下線などの印をつけながら範読を聞くよう促す。 	
(3) キーセンテンス（要点）の抽出 ① 黙読し、印を付けた英文を書き抜く。 ② ペアで共有する。 ③ 全体で共有する。	(10)	○黙読をして、印を付けた要点となる英文を本文からワークシートに書き抜かせる。 ・自己決定の場を保障する。 ・ペアで考えを交流させ、自らの考えを補正・補強させる。 ・全体で共有し、共感的人間関係を育み、自己存在感を高める。	ワークシート①-1 ※ア（記述点検・行動観察） タブレット PC スクリーン
4. Reflection & Prospect for the next 本時の学習を振り返り、次時への展望をもつ。	2	○本時の活動について、振り返らせる。 ウィリアム・カムクワンバさんについて知ることができたか。 ・要点を捉えようとしていた様子を見取り、評価する。	※ア（シート・振り返り）

7. 板書計画

めあて

 「世界を変えようとした同世代の思いを知り、メッセージを発信しよう！」

Today's Goal

 「Let's Get To Know Mr. William Kamkwamba.

～How did he become a hero?～

Ms. **Malala Yousafzai**

Ms. **Greta Thunberg**

Mr. **William Kamkwamba**

振り返り

 キーセンテンス（どのようにしてウィリアムさんがアフリカや世界でヒーローになったのか）
（予想される生徒の英文） “If I build a windmill, I can use the wind to make electricity.”
Building a windmill was new to him, but he believed that he could do it.
As the windmill turned, a small light began to shine.
He was only a 14-year-old boy. He did not go to school.
“I try, and I made it.” His English was a little poor, but his message was clear.

英語ワークシート①-1

3年()組()番 氏名()

Q1、本文を読んで、内容に合っている場合はTに、合っていない場合はFに○をつけよう。Fの場合は、その理由も考えてみよう。

1. William's village is one of the poor villages in Malawi.	(T / F)
2. William and his family went to bed when it got dark, because they wanted to save electricity.	(T / F)
3. William's family was so poor that they couldn't buy a school uniform and books for William.	(T / F)
4. William went to the library to learn about farming.	(T / F)
5. William reused many things to build a windmill.	(T / F)
6. People were impressed with William, because he built a windmill without going to school.	(T / F)
7. William became very famous only in Africa.	(T / F)

Q2、「どのようにしてウィリアムさんがアフリカの、そして世界のヒーローになったのか」を示す、

★、キーセンテンス（要点）だと思う英文を抜き出そう。また、そこを選んだ理由も書こう。

自分が選んだキーセンテンス（2か所以上でも可）
キーセンテンス①：
①を選んだ理由：
キーセンテンス②：
②を選んだ理由：
キーセンテンス③：
③を選んだ理由：

☆、仲間とキーセンテンスを共有し、それも書き抜いてみよう。

仲間が選んだ他のキーセンテンス
.....
.....
.....
.....

英語ワークシート①-2

3年()組()番 氏名()

Q & A (About Mr. William Kamkwamba)

Q1. What did William Kamkwamba like to do?

A1. (6 語)

Q2. What kind of stories did he like the best?

A2. (8 語)

Q3. Did he go to junior high school?

A3. (3 語)

Q4. What did he do to read books?

A4. (5 語)

Q5. What did he use to build a windmill?

A5. (13 語)

Q6. How old was he when he made a windmill?

A6. (5 語)

Q7. Could he go back to school and study again?

A7. (3 語)

英語ワークシート①-3

3年()組()番 氏名()

Read and Think

Ⓐ

問、(1)～(7)に、下から適する英語を選び、記入しましょう。

この物語に出てくる村は、

(1)どんな状況だったか？

⇒⇒William's village was very (1) and had no (2).

(2) その状況を改善するために少年は何をしたか？

⇒⇒To improve the situation, William built a (3) to make (2).

(3)その結果どうなったか？

⇒⇒ At last,

William built a (3), and his family had (2).

William became a (4) to many people in (5) and around the world.

William was able to go back to (6) and (7).

school study poor electricity windmill Africa hero

Ⓑ

問、カムクワンバ少年はなぜ世界を変えることができたのだと思いますか。それをまとめるため、

(1)～(6)に、下から適する言葉を選び、記入しましょう。

貧しくて(1)に通えなくなっても(2)などで(3)を続けたから。乏しい

(4)でありながら、(5)を信じてあきらめずに(6)を作り続けたから。

病院 学校 他人 自分 風車 自転車
図書館 運動 勉強 材料 石油

英語ワークシート②

3年()組()番 氏名()

マララさんと、グレタさんについて知ろう

1、 マララ・ユスフザイさんを知ろう。 Let's Get to Know Ms. Malala Yousafzai.

マララ・ユスフザイさん(17)が2013年7月、ニューヨークの国連本部で行った演説の全文は下記の通りです。

太字の下線部分を読み取り、下の問いに答えよう。

In the name of God, the most beneficent, the most merciful.

Honorable UN Secretary General Mr. Ban Ki-moon, respected president of the General Assembly Vuk Jeremic, honorable UN envoy for global education Mr Gordon Brown, respected elders and my dear brothers and sisters: Assalamu alaikum.

Today it is an honor for me to be speaking again after a long time. Being here with such honorable people is a great moment in my life and it is an honor for me that today I am wearing a shawl of Benazir Bhutto. I don't know where to begin my speech. I don't know what people would be expecting me to say, but first of all thank you to God for whom we all are equal and thank you to every person who has prayed for my fast recovery and a new life. I cannot believe how much love people have shown me. I have received thousands of good wish cards and gifts from all over the world. Thank you to all of them. Thank you to the children whose innocent words encouraged me. Thank you to my elders whose prayers strengthened me. I would like to thank my nurses, doctors and the staff of the hospitals in Pakistan and the UK and the UAE government who have helped me to get better and recover my strength.

I fully support Mr. Ban Ki-moon the UN Secretary General in his Global Education First Initiative and the work of the UN Special Envoy Mr. Gordon Brown and the respectful president of the UN General Assembly Vuk Jeremic. And I thank all of them for the leadership they continue to give. They continue to inspire all of us to action.

Dear brothers and sisters, do remember one thing: Malala Day is not my day. Today is the day of every woman, every boy and every girl who have raised their voice for their rights.

There are hundreds of human rights activists and social workers who are not only speaking for their rights, but who are struggling to achieve their goal of peace, education and equality. Thousands of people have been killed by the terrorists and millions have been injured. I am just one of them. So here I stand. So here I stand, one girl, among many. I speak not for myself, but for those without a voice can be heard. Those who have fought for their rights. Their right to live in peace. Their right to be treated with dignity. Their right to equality of opportunity. Their right to be educated.

Dear friends, on the 9th of October 2012, the Taliban shot me on the left side of my forehead. They shot my friends, too. They thought that the bullets would silence us, but they failed. And out of that silence came thousands of voices. The terrorists thought they would change my aims and stop my ambitions. But nothing changed in my life except this: weakness, fear and hopelessness died. Strength, power and courage was born.

I am the same Malala. My ambitions are the same. My hopes are the same. And my dreams are the same. Dear sisters and brothers, I am not against anyone. Neither am I here to speak in terms of personal revenge against the Taliban or any other terrorist group. I am here to speak up for the right of education of every child. I want education for the sons and daughters of the Taliban and all the terrorists and extremists. I do not even hate the Talib who shot me. Even if there is a gun in my hand and he stands in front of me, I would not shoot him. This is the compassion that I have learned

from Mohammed, the prophet of mercy, Jesus Christ and Lord Buddha. This the legacy of change that I have inherited from Martin Luther King, Nelson Mandela and Mohammed Ali Jinnah.

This is the philosophy of nonviolence that I have learned from Gandhi, Bacha Khan and Mother Teresa. And this is the forgiveness that I have learned from my father and from my mother. This is what my soul is telling me: be peaceful and love everyone.

Dear sisters and brothers, we realize the importance of light when we see darkness. We realize the importance of our voice when we are silenced. In the same way, when we were in Swat, the north of Pakistan, we realized the importance of pens and books when we saw the guns. The wise saying, "The pen is mightier than the sword." was true. The extremists were and they are afraid of books and pens. The power of education frightens them. They are afraid of women. The power of the voice of women frightens them. That is why they killed 14 innocent students in the recent attack in Quetta. And that is why they killed female teachers and polio workers in Khyber Pukhtoon Khwa. That is why they are blasting schools every day because they were and they are afraid of change, afraid of the equality that we will bring into our society. And I remember that there was a boy in our school who was asked by a journalist, "why are the Taliban against education?" He answered very simply by pointing to his book, he said, "a Talib doesn't know what is written inside this book."

They think that God is a tiny, little conservative being who would send girls to hell just because of going to school. The terrorists are misusing the name of Islam and Pashutun society for their own personal benefit. Pakistan is a peace loving, democratic country. Pashtuns want education for their daughters and sons. And Islam is a religion of peace, humanity and brotherhood. Islam says that it is not only each child's right to get education, rather it is the duty and responsibility.

Honorable Secretary General, peace is necessary for education. In many parts of the world, especially Pakistan and Afghanistan, terrorism, wars and conflicts stop children from going to schools. We are really tired of these wars. Women and children are suffering in many ways in many parts of the world.

In India, innocent and poor children are victims of child labor. Many schools have been destroyed in Nigeria. People in Afghanistan have been affected by the hundreds of extremism for decades. Young girls have to do domestic child labor and are forced to get married at early age. Poverty, ignorance, injustice, racism and the deprivation of basic rights are the main problems, faced by both men and women.

Dear fellows, today I am focusing on women's rights and girls' education because they are suffering the most. There was a time when women activists asked men to stand up for their rights. But this time we will do it by ourselves. I am not telling men to step away from speaking for women's rights, rather I am focusing on women to be independent and fight for themselves.

So dear sisters and brothers, now it's time to speak up. So today, we call upon the world leaders to change their strategic policies in favor of peace and prosperity. We call upon the world leaders that all of these deals must protect women and children's rights. A deal that goes against the rights of women is unacceptable.

We call upon all governments to ensure free, compulsory education all over the world for every child. We call upon all the governments to fight against terrorism and violence. To protect children from brutality and harm. We call upon the developed nations to support the expansion of education opportunities for girls in the developing world. We call upon all communities to be tolerant, to reject prejudice based on caste, creed, sect, color, religion or gender to ensure freedom and equality for women so they can flourish. We cannot all succeed when half of us are held back. We call upon our sisters around the world to be brave, to embrace the strength within themselves and realize their full potential.

Dear brothers and sisters, we want schools and education for every child's bright future. We will continue our journey to our destination of peace and education. No one can stop us. We will speak up for our rights and we will bring change through our voice. We believe in the power and the strength of our words. Our words can change the whole world

because we are all together, united for the cause of education. And if we want to achieve our goal, then let us empower ourselves with the weapon of knowledge and let us shield ourselves with unity and togetherness.

Dear brothers and sisters, we must not forget that millions of people are suffering from poverty, injustice and ignorance. We must not forget that millions of children are out of their schools. We must not forget that our sisters and brothers are waiting for a bright, peaceful future.

So let us wage, so let us wage a glorious struggle against illiteracy, poverty and terrorism, let us pick up our books and our pens, they are the most powerful weapons. One child, one teacher, one book and one pen can change the world. Education is the only solution. Education first.

Thank you.

【語句】

activist(s): 活動家 dignity: 尊厳 extremism: 過激派 prosperity: 繁栄 unacceptable: 容認できない
wage: 遂行する illiteracy: 非識字、無学、無知

Q & A (About the Speech of Ms. Malala Yousafzai)

Q1、本文を読んで、次の英語の質問に答えよう。

Q1. Who shot Malala on the left side of her forehead?
A1. (3 語)
Q2. From her speech, what can change the world?
A2. (10 語)
Q3. What is the only solution?
A3. (2 語)

Q2、「マララさんが国連の演説の中で最も訴えたかったこと」を示す、

★、キーセンテンス（要点）だと思ふ英文を抜き出そう。また、そこを選んだ理由も書こう。

自分が選んだキーセンテンス（2か所以上でも可）
キーセンテンス①： ①を選んだ理由：
キーセンテンス②： ②を選んだ理由：

☆、仲間とキーセンテンスを共有し、それも書き抜いてみよう。

仲間が選んだ他のキーセンテンス
・
・
・

2、 グレタ・トゥーンベリさんを知ろう。 Let's Get to Know Ms. Greta Thunberg.

グレタ・トゥーンベリさん（16）が2018年9月、ニューヨークで開催された国連気候行動サミットで行った演説は下記の通りです。

次の英文を読み取り、下の問いに答えよう。

This is all wrong. I shouldn't be up here. I should be back in school on the other side of the ocean. Yet you all come to us young people for hope? How dare you!

You have stolen my dreams and my childhood with your empty words. And yet I'm one of the lucky ones. People are suffering. People are dying. Entire ecosystems are collapsing.

We are in the beginning of a mass extinction. And all you can talk about is money and fairytales of eternal economic growth. How dare you!

For more than 30 years the science has been crystal clear. How dare you continue to look away, and come here saying that you are doing enough, when the politics and solutions needed are still nowhere in sight.

You say you "hear" us and that you understand the urgency. But no matter how sad and angry I am, I don't want to believe that. Because if you fully understood the situation and still kept on failing to act, then you would be evil. And I refuse to believe that.

The popular idea of cutting our emissions in half in 10 years only gives us a 50% chance of staying below 1.5C degrees, and the risk of setting off irreversible chain reactions beyond human control. Maybe 50% is acceptable to you. But those numbers don't include tipping points, most feedback loops, additional warming hidden by toxic air pollution or the aspects of justice and equity. They also rely on my and my children's generation sucking hundreds of billions of tonnes of your CO2 out of the air with technologies that barely exist. So a 50% risk is simply not acceptable to us — we who have to live with the consequences. To have a 67% chance of staying below a 1.5C global temperature rise — the best odds given by the Intergovernmental Panel on Climate Change — the world had 420 gigatons of carbon dioxide left to emit back on 1 January 2018. Today that figure is already down to less than 350 gigatons. How dare you pretend that this can be solved with business-as-usual and some technical solutions.

With today's emissions levels, that remaining CO2 budget will be entirely gone in less than eight and a half years. There will not be any solutions or plans presented in line with these figures today.

Because these numbers are too uncomfortable. And you are still not mature enough to tell it like it is. You are failing us. But the young people are starting to understand your betrayal. The eyes of all future generations are upon you.

And if you choose to fail us I say we will never forgive you. We will not let you get away with this. Right here, right now is where we draw the line.

The world is waking up. And change is coming, whether you like it or not.

【重要表現】

*How dare you!: よくもそんなことを!

*empty words: 空っぽなことば、実体のないことば、うわべだけの言葉

*nowhere in sight: 先が見えない、目処が立っていない

*business as usual: 通常通りの、変わりばえのない

*You are failing us.: あなたたちは私たちに失望させている、裏切っている

Q & A (About the Speech of Ms. Greta Thunberg)

Q1、本文を読んで、次の英語の質問に答えよう。

Q1. What kind of feeling or emotion does Greta feel?
A1. (3 語)
Q2. Which is her topic, the World Peace or the World Environment?
A2. (4 語)
Q3. From her speech, what is coming?
A3. (2 語)

Q2、「グレタさんが国連の演説の中で最も訴えたかったこと」を示す、

★、キーセンテンス（要点）だと思ふ英文を抜き出そう。また、そこを選んだ理由も書こう。

自分が選んだキーセンテンス（2か所以上でも可）
キーセンテンス①:
① を選んだ理由:
キーセンテンス②:
② を選んだ理由:

☆、仲間とキーセンテンスを共有し、それも書き抜いてみよう。

仲間が選んだ他のキーセンテンス
.
.
.

3、今日の授業について、次の質問に答え振り返りましょう。

1. マララさんについての英文を理解できた。	(Max 4-3-2-1 Min)
2. マララさんの思いがわかった。	(Max 4-3-2-1 Min)
3. グレタさんについての英文を理解できた。	(Max 4-3-2-1 Min)
4. グレタさんの思いがわかった。	(Max 4-3-2-1 Min)

英語ワークシート③

3年()組()番 氏名()

世界を変えようとした同世代の思いを振り返り

英文でメッセージを発信しよう

★、これまで、同世代の活動家 (Mr. William Kamkwamba, Ms. Malala Yousafzai, Ms. Greta Thunberg) についての英文を読んできました。それぞれ抜き出してきたキーセンテンス (要点) を振り返り、3人の中で一番共感した活動家への、自分自身の思い・メッセージを記入しましょう。

☆、自分が一番共感した活動家の名前【 】

マッピング、メモ	選んだ活動家への思い・メッセージ (英文)

☆彡、仲間たちの思い・メッセージを聞き、感想を記入しましょう。

仲間の思い・メッセージを聞いての感想 (英語または日本語)

★、最後に、今回の授業を通して、次の質問に答えましょう。

1. 自分たちと同世代の活動家についての英文を理解できた。	(Max 4-3-2-1 Min)
2. 世界を変えようとした同世代の思いがわかった。	(Max 4-3-2-1 Min)